

実施計画事業の取り組み状況まとめ 見方 【表面】

■ 活動指標、成果指標

事業を実施するにあたり、指標及び目標値を設定し、これに基づく実績値を示しています。

活動指標：どのような活動を行うのか、どのようなサービスを市民に提供するのか等、行政が行う活動量を表す指標。

成果指標：実際に行う活動や提供するサービスの結果、どのような効果をどれだけあげることができるのかを表す指標。

■ 説明・算定式

指標の説明を要するものについて記載しています。

5段階評価の場合、「5」が最も高い評価となります。

3段階評価の場合、「3」が最も高い評価となります。

1. 事業の位置付け

事業事業名	青少年指導員活動事業		
事業担当	健康・子ども部 青少年課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①(人間力) 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	01	1いのちを大切にすることをもち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	青少年	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働: 市民・自治会等】		
	目的・目標	事業の概要	
地域から選出された青少年指導員が、行政とともに青少年への指導・助言や、地域行事のサポート、環境浄化活動などを行い、明日を担う青少年の健全育成と、それを実現できる環境をはぐくんでいます。		青少年健全育成を地域ぐるみで推進するため、地域人材を青少年指導員に委嘱し、地域行事への協力や青少年への指導などを推進するとともに、研修会などを実施することにより指導員活動を支援します。	

■ 総合計画の位置づけ

「平塚市総合計画 生活快適夢 プラン」における位置付けを示しています。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	理事会・総会開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	7	6	7	6		
	実績	7	6	7	6		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	青少年指導員の活動率				単位	%
	説明・算定式	(実際にイベント等で活動した期間(月を上中下旬に3区分した期間)の数÷(12か月×3期間×28地区))×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	73	74	75	75		
	実績	71.6	77.7	75.9	74.7		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

■ 事業分析

事業を「必要性」「有効性」「妥当性」「効率性」の4つの観点から分析しています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	県を中心に各市に同様の制度があり、市が関与することで連絡体制も円滑化されていますので、今後も事業を継続して行う必要があります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	青少年指導員の活動は、次世代育成や環境浄化に非常に効果があり、子ども大会や成人式等の青少年育成事業の運営にも欠かせない存在となっていることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の青少年指導員の人数は、他の自治体に比べるとやや多いが、地区毎に行う事業の規模や、役員にかかる負担を考慮すると、事業内容は妥当であると思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	青少年指導員の活動は基本的にボランティアであり、地域に居住する大人の中から選出されているため、地域内の事情にも通じ、少ない予算の中で地域の青少年育成に貢献していることから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低

■ 執行率

試算額（パブリックコメント実施時）に対する決算額の割合を示しています。

■ 人件費

各年度の平均給与より算出しています。

■ 進捗状況

活動指標の目標値に対する実績値の割合による評価です。

- ①：予定どおり
… 90%以上
 - ②：若干遅れている
… 70%以上90%未満
 - ③：遅れている
… 70%未満
- ※進捗状況が②または③の場合のみ、遅れている理由を掲げています。

3. 年度別事業内容・決算額 (単位:千円)

事業内容	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	決算額	決算額	決算額	決算額
研修会などの実施				
研修会などの実施				
研修会などの実施				
研修会等の実施				
財源内訳				
国庫支出金	0	0	0	0
県支出金	602	578	350	314
起債	0	0	0	0
その他 特財	0	0	0	0
一般財源	4,599	5,334	4,638	5,110
事業費 (A)	5,201	5,912	4,988	5,424
執行率 (%)	97.45	98.58	93.46	93.08
内訳				
職員 (人)	0.45	0.45	0.47	0.57
再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)	3,776	3,776	3,928	4,708
フルコスト (A+B)	8,977	9,688	8,916	10,132

4. 事業展開の経緯

進捗状況	平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
遅れている理由	-	-	-	-
主な取組と成果	理事会2回開催。総会2回開催。研修会を2回開催。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成を地域ぐるみで推進することができた。	理事会5回、総会1回、研修会を2回開催しました。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成の取り組みを地域ぐるみで推進しました。	理事会5回、総会2回、研修会を2回開催しました。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成の取り組みを地域ぐるみで推進しました。	理事会5回、総会1回、研修会を2回開催しました。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成の取り組みを地域ぐるみで推進しました。
検証結果	A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題	青少年指導員の地区活動そのものには問題はないが、地区によっては子どもの数が増えており、そのため各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要がある。	小学校区によっては子どもの数が増えており、各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要があります。	小学校区によっては子どもの数が増えており、各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要があります。	小学校区によっては子どもの数が増えており、各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要があります。

■ 事業内容・事業費

各年度に実施した事業内容及びこれに要した事業費を表しています。
事業費は当該年度予算の他、継続費等その年度に執行した費用の合算です。
実施する内容がない場合、「-」で表しています。
事業費を要しない事業の場合、「0」で表しています。

■ 検証結果

成果指標の目標値に対する実績値の割合による評価です。

- A: 成果があがった
… 90%以上
- B: おおむね成果があがった
… 70%以上90%未満
- C: 十分に成果をあげることができなかった
… 70%未満